

Jリーグとラジオ中継
地域密着型スポーツと地域密着型メディアの親和性
A Consideration of Relationship between Japan Football League and
Community Radio

1K06B185

平嶋 圭

指導教員 主査 リー・トンプソン先生

副査 宮内孝知先生

【序章】なぜラジオ中継なのか？

サッカー文化は日本に根付いているのか。これが本論文の主題である。Jリーグ開幕以降、日本のサッカー文化は変わった。百年構想を掲げ、ホームタウン、サポーターといった新しい言葉が創られた。サッカーが文化であるなら、日本のこれからのサッカー文化にとって「サッカーを語る言葉」が担う役割は大きいはずだ。そこで、本論文では、言葉のメディアであり地域メディアであるラジオを切り口に、サッカー文化を考察する。

【第1章】Jリーグとラジオ中継

Jリーグとは何か、日本のサッカー文化はどこを目的としているのか。2009年現在、地域コミュニティ FM によるサッカーラジオ中継試合数が増加傾向にある。この背景には何があるのか。本章では百年構想をキーワードに日本サッカーの現状と背景をまとめ、ラジオ中継と Jリーグについて考察した。地域密着型スポーツと地域密着型メディアの相性は良く、今後もラジオ中継は浸透すると同時に日本のサッカー文化形成において地域メディアの貢献は大きいと考えられる。

【第2章】海外サッカー文化が出来るまで

サッカー文化の有り様は、国によって違う。本章では、日本が目指す欧州型スポーツ文化とは一味違う、熱狂のサッカー大国、ブラジルのサッカー文化に焦点をあて記載した。ラジオ中継が盛んで、都市部でのサッカーくじ購入率が 90%を超えるブラジル。この国にサッカーがどのように根付いたのかを文献を中心にまとめ、考察した。そし

て、サッカーは世界最大のヒット商品であり、社会を凝集しているとの考えのもと、その誕生の歴史と世界化の背景をまとめている。

【第3章】実況者の言葉からサッカー文化を考える
Jリーグ以前、以後で、メディアにおいてサッカーを語る言葉についてのディテールは格段に違うと実況者：倉敷保雄と山本浩は語る。本性では、実況者や指導者が使う「サッカーを語る言葉」から、野球中継や海外サッカーとの比較を基に、日本のサッカー文化の現在地点と「これから」について考察した。サッカーを競技的に観戦するには、見る側にも前提として一定の知識を求められる。サッカーリテラシーともいえるこの日本のサッカー理解度の低さは、海外諸国と比べても課題となる点である。

【終章】百年構想とサッカー文化を考える

本論文の趣旨である日本のサッカー文化と言葉、ラジオ中継の関係について提言を含め、考察した。サッカーは見る側に知識を必要とするスポーツであるが、ラジオは製作費用が安く、コミュニティ FM においては放送コンテンツ不足という実情もある。そこで、Jリーグサッカーの地域普及という観点から試合前後のサッカー番組放送などを通して、日本のサッカー・リテラシーの向上と、サッカーの試合中継を、言葉を通して浸透させていく方針が極めて有効だと考える。そして、小さなメディアではあるが、このFMコミュニティラジオの動向の延長線上には、Jリーグが打ち出した百年構想の達成があるはずだと信じ、本論文を終え

る。